

平成 29 年度「知事と市町長の1対1対談」(度会町)概要

1 対談時間

平成 29 年 9 月 13 日 (水) 14 時 00 分～15 時 00 分

2 対談場所

度会町役場 (度会郡度会町大字棚橋 1215-1)

3 対談市町名

度会町 (度会町長 中村順一)

4 対談項目

- (1) 防災拠点を兼ね備えた総合スポーツ施設整備への財政支援にかかる国への働きかけについて
- (2) 三重の「匠」認証制度 (仮称) 創設にかかる次代を担う若者への技術伝承について

5 対談概要

- (1) 防災拠点を兼ね備えた総合スポーツ施設整備への財政支援にかかる国への働きかけについて

(度会町長)

三重県では、2021 年に開催される第 76 回国民体育大会「三重とこわか大会」と第 21 回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」の成功に向け、県内で活躍するアスリートの育成や強化、発掘等を進めていただいているところで、今から開催が待ち遠しいところです。

度会町は、子どもたちのスポーツ活動、特に、指導者にも恵まれて小中学生のソフトボールが非常に盛んです。度会町出身で全国の実業団で活躍している方も複数みえます。そんな中、地元の度会中学校のソフトボール部が、平成 26 年度から県の強化指定運動部に 4 年連続で指定していただいております。町として本当にありがたく、お礼申し上げたいと思います。そして、今後とも、子どもたちの競技力向上に引き続き支援をいただきますようお願いをしたいと思います。

(知事)

部活の強化指定は、高校や大学等は 80 とか 90 とか指定していますが、中学校については、かなりの実績があるところを中心に指定させて頂いておりますので、県内で 4 つしかないんです。1 つは度会中学校のソフトボール部、それから紀宝町の矢淵中学校でソフトテニス部、伊勢市の小俣中学校でバトミントン部、多気町と松阪市の組合立多気中学校で陸上競技部。この 4 つだけです。

度会中学校ソフトボール部は、強化指定させて頂いて、実績も上げ、また先輩には日本代表でも活躍された山根選手とかがみえます。そして、ちょうど三重とこわか国体のときに少年種別に出場できるのが来年度の中学 1 年生から 3 年生で、特にこの子たちを強化指定して力を蓄えていくということは、国体で少年種別で点数を取るためにも

大変重要なことですので、引き続き、しっかり頑張っていきたいと思
います。

(度会町長)

度会町は、三重とこわか国体にお役に立ちたい、ともに盛り上げた
いという気持ちから、ソフトボールの開催場所に手を挙げましたが、
残念ながら、施設の基準に満たないということなどで、やむなく取り
下げました。その後、デモンストレーションスポーツとして、当町で
ウォークラリーを開催することになりました。しかし、私といたしま
しては、基準を満たすグラウンドがあったなら、また、幅広い目的で
利用してもらえるスポーツ施設があったなら、今回のソフトボール誘
致にも、また他のスポーツ大会にも利用いただけたのかなと、未だに
悔む気持ちもあります。

6年半前に東日本大震災の被災地に行った際、岩手県の遠野市が当
町のサニーロードを中心とした内陸部とよく似ているので、見せても
らいにいきました。遠野市には、総合運動公園という大きなものがあ
って、そこに防災の施設も入って、物資輸送の拠点として非常に機能
していましたし、被災された方々を救いたいということで仮設住宅の
建設もされていました。

南海トラフにおける巨大地震の発生が懸念される当地域におきまし
ても、スポーツと防災の両側面を兼ね備えた総合施設があれば、有事
の際に、町内外からの避難者の方々の受け入れなどの拠点として、活
用の場も広がるのではないかと思います。

このように、スポーツ施設には、避難場所や災害関連用品の備蓄倉
庫等の防災機能を合わせ持った大規模な防災拠点としての役割が期待
できますので、こうした多面的な機能を備えたスポーツ施設の整備に
ついて知事のお考えを聞かせていただきたい。そして、当町のような
小さな自治体が整備を進めようとする際の財政支援について、是非と
も国への働きかけをお願いしたいと思います。

(知事)

スポーツ施設については、ハード整備はなかなか大変な状況ですが、
やはりスポーツ施設があることで、地域の皆さんに楽しんでいただい
たり、近隣からの交流人口も増えるということで、地域の活性化に果
たす役割は非常に大きいと思います。

私も東日本大震災に関連して申し上げますと、岩手県釜石市、昔、
新日鉄釜石があってラグビーが盛んなところでしたが、東日本大震災
があったり鉄鋼業界全体の低迷もあって、ラグビーができない状況に
なりました。「釜石の奇跡」として知られていますが、東日本大震災
の時、鵜住居小学校と釜石東中学校が並んで建っていたんですが、児
童・生徒は高台に避難し、99.8%の子どもが生き残ることができまし
た。しかし、津波で校舎の3階、4階までやられてしまい、学校とし

て使えなくなりました。そこで、この跡地に、2019年のラグビーワールドカップの開催場所にということで、半分ぐらい仮設ですがラグビー場を建ててラグビーができるようにして、市民の皆さんの誇りであったラグビーの復活に向けた土壌を整備するということを進められています。この7月に工事現場を見てきましたが、スポーツ施設がまちに元気を与えるという効果はすごく大きいと改めて思った次第です。

それから、防災という観点では、町長のおっしゃったとおりでありまして、既存の文部科学省の補助金などの活用については、もちろん一緒に国に働きかけていきたいと思えます。

例えば、大津市の皇子山公園は、備蓄など防災機能も兼ね備えた施設にするということで、国土交通省の防災に係る補助メニューを使って野球場を改修されています。スポーツ施設に防災等の多面的機能を兼ね備えたものを整備していくのは大事であると思えますので、構想が具体的になっていくのに合わせて、国への働きかけも一緒にやっていきたいと思えます。

(2) 三重の「匠」認証制度（仮称）創設にかかる次代を担う若者への技術伝承について

(度会町長)

県内には、旧来から受け継がれた技術や手法で、農林水産業やものづくり産業を支える、いわゆる「匠」とか「名人」と呼ばれる方が多くみえると思えます。そういった方々が持つ特殊な技術は、近年の産業界を取り巻く構造変化やグローバル化が一層進む時代だからこそ、若い人へ受け継がれていくべきだと思えます。

私は、そういった、これまであまり前に出てこなかった方々の中で、特にリーダーの資質を備えた方とか非常に技術の優れた方を、県が認証・登録し、「匠」グループとして、次代を担う若手育成につなげていく制度を作っていたいただければと思っています。

地域特産品とか農産物についての認証制度はあると思えますが、人に対してのものが無いように思えます。例えば、度会町で言えば、炭焼きで残された技術を持っておられる方とか、枝打ちのうまい方とか、お茶を上手に作る方とか、また、ものづくりでは、ステンレス製品に関する高い技術を持って新しい形態で事業展開している方とか、そういった技術力のある方がおみえになります。そういった方々へ手を差し伸べていただいて、若い人たちが夢と希望を持てる職業の一つとして、県内にはそういった技術一筋で頑張っている方々がいるということ、県が積極的に発信していただくことで、子どもたちの可能性も広がり、同時に技術の伝承とか第1次産業の振興につながるのではないかと考えておりますので、知事の考えをお聞かせいただきたいと思えます。

(知事)

三重県でも、物を認定・登録して、それをPRする制度として、例えば三重ブランドというのがあります。伊勢茶、伊勢エビ、松阪牛とかもそうなのですが、実は、三重ブランドは、その品目だけでなく事業者もセットで登録しているのですが、物ばかりがPRされていて、頑張っている事業者さんとか職人さんの方がちゃんとPRできていないという実態もあると思います。事業者の方や技術を持っている人がいないと、実際、そういうものは育っていかないし、維持できないと思いますので、今、町長がおっしゃったことは大変重要なことだと思います。

そこで、まずはファーストステップとして、三重ブランドの事業者とか、地域特産物マイスターとか、その他、名人、名工みたいな制度がいくつかあるので、そこで認定を受けている県内の人たちを、例えばホームページに「三重の匠」というページを作って、こういう技術を持った人がいるんだということを知ってもらえるように情報発信する、そういうのは是非検討していきたいと思います。

そして、それではまだPRが足りないとか、今ある制度では拾えないような名人がいるとかいう場合には、町長おっしゃったような新しい制度を作っていくかといけないのかなと思います。頑張ってくれている人とか高い技術を持っている人を、分野に関わらず大切にしていって、住民の皆さんに良く知ってもらおうということは、極めて重要なことだと思いますので、どういうことができるか是非考えていきたいと思います。

(度会町長)

三重県で林業大学校を創設するということですので、例えば、先ほどの「匠」とかの関連で、枝打ちの名人とか木を倒す名人とかいう人が、そこで技術を伝えるというようなことをしてもらえると、埋もれている林業も一步一步良くなるのではないかと思います。寸分なく決められた方向に木を倒せる技術とかをしっかり身につけるような若い人がでてくると、この職業にも魅力があるんだということだと思う人が増え、雇用とか少子高齢化の解消にもつながると思いますので、林業大学校を開講するにあたって、そういうことも含めて考えていただけるとありがたいと思います。

(知事)

中山間地域においては、林業を活性化することが地域人口の維持や若者の定着につながっていくと思いますし、林業を頑張っている人は、地域自体のリーダーであることも結構多いので、林業で頑張る人材を増やしていこうという観点から、林業大学校の検討をしてみました。

三重県が開講する林業大学校「みえ森林・林業アカデミー」は、新しく林業に入る人を研修するのではなく、すでに林業をしている人た

ちに、さらにレベルアップしてもらうため、さらに技術や経営のノウハウを高めてもらうためのものにしようと思っています。林業で頑張っている人には、働いているからこそ分かる問題意識があると思いますので、それを発展させるために来てもらうということで、来年 10 月にプレ開講し、平成 31 年 4 月からオープンしたいと思っています。

勉強してもらう場所は三重県林業研究所ですが、実際の技術を学んでいただくフィールドは三重県全体でと思っていますので、是非、度会町の森林組合の皆さんにも協力いただいて、中山間地域を元気にする、林業を元気にする人材を育てていきたいと思っています。

そして、名人と言われるような方々の高い技術をどう伝えていくかについては、開講するコースの中に技能者の技術を高めるためのものもありますので、そういう技術を学んでいくところで名人たちに手伝ってもらうことは大事だと思います。是非活用させていただければと思います。